

私の好きな場所

～子供たちに未来を残すた
めに～

TAKA

私の好きな場所

日当たりのいい縁側。

母親の干した布団の上でゴロゴロしていた子ども時代。

秋には稲刈りがあって、田んぼのぼたの草の上に家族がみんな座ってお昼ご飯を食べる。チクチクするけど草の感触は心地いい。

2階の窓から瓦屋根に出るのが好きだった。

一番上の部分に腰かけ、いつまでの青い空と白い雲を眺めていた。親に見つかりと怒られたけれど。

生垣の中に子どもだけが入れる空間があって、そこが自分たちの秘密基地だった。

昼間でも日が差さず、まるで影の国みたいに見えていた裏山の杉林。その奥にはご先祖様のお墓があって、いつもひんやりとした空気がたちこめていた。

みんなで泳いだ学校近くの川。

夏の太陽に照らされた岩の表面は気持ちがよくて、疲れるとみんなで並んで甲羅干しをした。

子どもの頃は広く感じた神社の境内。

こっそりのぞいた小さなお社。その中にあったのは小さな石だった。誰もさわる勇気が出なかったなあ。

大人になって免許を取って、車で遠くまで出かけた。

海を見に行ったり、山奥の温泉に入りに行ったり。

海外で見た景色も素晴らしかったけれど、いま思い出す私の好きな場所は故郷の景色ばかりだ。

遠足で登った山。

大きな蜘蛛がいて怖くて通れなかった近所の道。

休日に両親と一緒に逆上がりの特訓をした小学校の運動場。

近所の女の子と二人きりで待つのが照れくさかった田舎のバス停。

都会に出た時も帰って来た時も出迎えてくれた木造の駅舎。

そんなすべてが一日で消えてしまったらどんな気持ちができるだろう？

住み慣れた場所を、ただ遠くから眺めるだけで、立ち入ることもできなくなったらどう感じるだろう？

家も、川も、神社や小学校も、木造の駅舎や思い出のバス停も、すべてが目の前で押し流されてガレキの山に変わってしまったら、私の心はどうなってしまうのだろうか？

放射能に汚染されましたって言われたら、その土地を捨てて別の町で暮らせるだろうか？

私たちは何を失ってしまったのだろうか。

どんな時代でも、どんな場所でも、子供たちは生まれてくる。

そこで育つ彼らの目に映る景色が故郷だ。

ひとつでも多く、彼らの好きになれる場所を私たちはつくれるだろうか？

放射能を気にせずに外で遊べる、そんな大地に戻せるだろうか？

私の好きな場所はもう記憶のなかにしかない場所もあるけれど、いまでも思い出すと私の力になってくれる。

私の生きた場所だから。

だから子供たちにも好きな場所をたくさんつくって欲しい。

これからの世界もどうか好きになって欲しい。

それがきっと生きる力になると思うから。

私の好きな場所は、私がいま生きているこの場所です。

私の好きな場所 ～子供たちに未来を残すために～

<http://p.booklog.jp/book/26421>

著者：TAKA

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/hakwsbook/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/26421>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/26421>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.